2025 年 8 月 5 日

# タマゴのおいしさ・峯木ラボ

(第 55 回)

8月、暑い季節です。見上げると太陽がすぐそばに感じます。

5 歳の孫が通っている保育園が 4 月より突然、インターナショナル〇〇保育園になり、英語を教わることになりました。冷蔵庫を開けたら、後ろから、孫が「エッグ、ツー」と叫びました。ビックリ！！

## 1. 官能評価における記号効果

食品のおいしさをヒトを用いて測る手法に“官能評価”があります。官能評価を行う場合、試料には順序効果、記号効果、ブランド効果などがあるので、試食および試飲の際には注意が必要です。ブランド効果は、品質や価値、ブランドなどに関わる情報が試料の評価に影響を及ぼすことを言います。ブランドに関する構えや先入観による影響を省く必要があります。試料名に企業名を想起するイニシャル(M 社、S 社、K 社など)を使用した場合も、パネリスト(評価者)はそのイニシャルから想起される企業名を想定した評価を付加するので、注意が必要です。私の官能評価の授業で、ハンドクリームの官能評価を行いました。“においが強すぎ、べとつく”などの評価が悪かったハンドクリームは、フランスに本社を置く有名なブランド商品でした。ところが、その商品がブランド製品と知らされて行った官能評価では、においもテクスチャーも最高評価が付きました。ブランド力のすごさを感じました。

官能評価の試料につける記号に、一般に A、B は使いません。記号効果が発生するからです。実験例として、2 種のカステラを S 試料,T 試料として評価した際に、T 試料に高評価が付きました。そこで、S 試料を A 試料、T 試料をB試料と表示して評価させると、T試料が高評価であると判定した数人が、A試料(S 試料)に高評価をつけました。 やはりA、Bは使用できないことがわかりました。

## 2. 好きなアルファベットは

6 月 7 日(土)の朝日新聞土曜版に好きなアルファベットは？という質問の記事がありました。

第 1 位は断然“A”。エースという意味も含み、ヤマのようで安定感のある字、一番を飾る華々しさがある、誰もが A が好き、A ランク・A 判定が欲しい、一番初めに覚えた文字で、牛の頭を意味したところも好き、アメリカの頭文字は A という答えが書かれていました。こんなに A が好まれるのであれば、A、Bの記号は官能評価に確かに使用できないと再認識しました。ちなみに“B”は好きな第 18 位でした。

第 2 位は、“M”です。大好きな山やお金の頭文字、好きな人のイニシャルという人も多いようです。中には、左右対称に綺麗にかけたときの気持ちよさが良い！、筆記体で書くとでおしゃれに感じた、小文字で書くと曲線柔らかでよいなどもあります。そういえば、「M」というタイトルの歌もありました。第 3 位は K で、野球のスコアに書き込む K が好き、3画目を2画目の元から書かずちょっとずれたところから書き始めるのが好きと M とは異なるアンバランスさに魅力を感じる人もいるようです。4 位は S で、スーパースターを連想、第 5 位の T は、タイガースファンが多いようです。苦手なアルファベットは、想像通り書

きにくい“Q”だそうですが、不思議なことに Q は好きなランクで第 12 位です。いまだ、Q は質問時で使用しますし、古くはお化けの Q 太郎の漫画もありました。タマゴの Egg の“E”は、残念ですが、好きなランクの第 20 位です。ですが、EGGではなく、Egg の小文字のgはかわいらしく、さらに E**gg** と書いてあると愛くるしく感じるのは私だけでしょうか。なお、Gは好きな第 14 位になっていますが、野球ファンの票が入っているらしいです。

表1. 好きなアルファベットベストテン（3 択、回答数 2478 人）

| 第１位 | 第２位 | 第３位 | 第４位 | 第５位 | 第６位 | 第７位 | 第８位 | 第９位 | 第９位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | M | K | S | T | Y | H | R | F | Z |

## 3. 第 11 回タマゴシンポジウム

6 月18日東京大学農学部弥生講堂にて、タマゴ科学研究会主催のタマゴシンポジウムが開かれました。テーマは、**第 11 回タマゴシンポジウム～タマゴの魅力・再発見～11 回目のリスタート～で**、4講演が行われました。最初の山形大学古川英光先生は「3D フードプリンターで食の殻を破る！」の題で、最先端の科学技術が私たちの食の未来をいかに確信しタマゴの可能性を広げていくかというビジョンをご示唆いただきました。女子栄養大の新開省二先生は「フレイル予防と食・栄養」という現代の社会が直面する喫緊の課題に対して、栄養価の優れたタマゴがいかに貢献できるかをご解説いただきました。次の女子栄養大の林芙美先生は「タマゴを通して考える健康で持続可能な食事」というテーマで、個人の健康と地球環境の持続可能性を、タマゴという身近な食材から、結びつけてお話しいただきました。

最後にキユーピー株式会社の金光智行様と奥山綾子様からは「キユーピーマヨネーズ発売百年の軌跡」と題し、国民的調味料であるマヨネーズの歴史と、いまなお続いているマヨネーズに込めた情熱と技術の探求の道のりを紹介いただきました。これらの講演の抄録や講演動画はタマゴ科学研究会の HP（http://japaneggscience.com/）をご覧ください。

また、6 月 13 日東京大学安田講堂にて、一般社団法人日本養鶏協会主催の「鳥インフルエンザに関するシンポジウム」が開催されました。参加しましたので、紹介いたします。東京大学農学生命科学研究科教授である堀本泰介教授は「鳥インフルエンザを理解する」の題で、2004年から2025年までの日本における発生状況を説明し、鳥インフルエンザが、野鳥からあらゆる哺乳動物（アライグマ・キタキツネ）に感染した例を示しました。その後、哺乳動物への感染だけでなく、ヒトに感染する可能性と病態も説明しました。次にジョンズホプキンス大学 SAIS ヨーロッパ校グローバルヘルス担当のフィラリアカプア博士は Circular Health（循環する健康）およびその鳥インフルエンザとの関係の題で講演されました。可能な限り早期の抑止が必要となるといい、管理戦略には安価かつ農業的な環境に適用可能なワクチンの接種を含めるとしています。

＊タマゴのおいしさ研究所　峯木　眞知子　〒182-0002　東京都調布市仙川町2－5―7
タマゴ科学研究会　E-mail:info@japaneggscience.com（←質問、感想はこちらにお願いします）